

ドイツ語学ドイツ文学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター
西洋文化学特論Ⅰ	近現代ドイツ文学講読	2	嶋崎 啓	前期 水曜4限
西洋文化学特論Ⅱ	近現代ドイツ文学講読	2	嶋崎 啓	後期 水曜4限
ドイツ文学特論Ⅰ	カフカを読む	2	森本 浩一	前期 金曜4限
ドイツ文学特論Ⅱ	批評演習	2	森本 浩一	後期 金曜4限
ドイツ文化学特論Ⅰ	ドイツ(語)文化圏としての 中欧の文化と歴史 (12)	2	佐藤 雪野	前期 金曜2限
ドイツ文化学特論Ⅱ	ドイツ(語)文化圏としての 中欧の文化と歴史 (13)	2	佐藤 雪野	後期 金曜2限
ドイツ語学特論Ⅰ	モダリティ	2	NARROG HEIKO	前期 木曜2限
ドイツ語学特論Ⅱ	モダリティ	2	NARROG HEIKO	後期 木曜2限
ドイツ文学研究演習Ⅰ	ルーマニア・ドイツ語文学 におけるホコーストとナチ ズム	2	藤田 恭子	前期 金曜3限
ドイツ文学研究演習Ⅱ	ドイツ語の散文作品を読 む	2	藤田 恭子	後期 金曜3限
ドイツ語学研究演習Ⅰ	ドイツ語・ドイツ語圏文化 講読	2	NARROG HEIKO	前期 火曜2限
ドイツ語学研究演習Ⅱ	ドイツ語・ドイツ語圏文化 講読	2	NARROG HEIKO	後期 火曜2限

科目名：西洋文化学特論 I

曜日・講時：水曜 4 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LM13401, **科目ナンバリング：**LGH-LIT628J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：近現代ドイツ文学講読

2・授業の目的と概要：近現代のドイツ語の文学作品を原文で読み、ドイツ文学一般の特徴と個々の作家の特徴を探る。今期はペーター・ビクセル『季節』を読む。

ペーター・ビクセル (1935-) はスイスの作家で、1965 年にグルッペ 47 賞を受賞している。『季節』は次第に崩壊していく建物と体験と記憶の揺らぎを平易で即物的な文体で断片を積み重ねることによって描く小説である。

3. 学習の到達目標：ドイツ語で書かれた文学作品を読んで文脈と個々の語彙から内容を理解することができる。作品の内容について自分なりの解釈ができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 『季節』講読 1
- 3 『季節』講読 2
- 4 『季節』講読 3
- 5 『季節』講読 4
- 6 『季節』講読 5
- 7 『季節』講読 6
- 8 『季節』講読 7
- 9 『季節』講読 8
- 10 『季節』講読 9
- 11 『季節』講読 10
- 12 『季節』講読 11
- 13 『季節』講読 12
- 14 『季節』講読 13
- 15 『季節』講読 14

5. 成績評価方法：平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

6. 教科書および参考書：プリントを配布する。

7. 授業時間外学習：小学館「独和大辞典」、相良「大独和辞典」はもとより、Grimms Wörterbuch, Adelung, インターネットの DWDS など、あらゆる手段を使って予習をすること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：西洋文化学特論Ⅱ

曜日・講時：水曜 4 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LM23407, **科目ナンバリング：**LGH-LIT629J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：近現代ドイツ文学講読

2・授業の目的と概要：近現代のドイツ語の文学作品を原文で読み、ドイツ文学一般の特徴と個々の作家の特徴を探る。今期はペーター・ビクセル『季節』を読む。

ペーター・ビクセル (1935-) はスイスの作家で、1965 年にグルッペ 47 賞を受賞している。『季節』は次第に崩壊していく建物と体験と記憶の揺らぎを平易で即物的な文体で断片を積み重ねることによって描く小説である。

3. 学習の到達目標：ドイツ語で書かれた文学作品を読んで文脈と個々の語彙から内容を理解することができる。作品の内容について自分なりの解釈ができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 『季節』講読 1
- 3 『季節』講読 2
- 4 『季節』講読 3
- 5 『季節』講読 4
- 6 『季節』講読 5
- 7 『季節』講読 6
- 8 『季節』講読 7
- 9 『季節』講読 8
- 10 『季節』講読 9
- 11 『季節』講読 10
- 12 『季節』講読 11
- 13 『季節』講読 12
- 14 『季節』講読 13
- 15 『季節』講読 14

5. 成績評価方法：平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

6. 教科書および参考書：プリントを配布する。

7. 授業時間外学習：小学館「独和大辞典」、相良「大独和辞典」はもとより、Grimms Wörterbuch, Adelung, インターネットの DWDS など、あらゆる手段を使って予習をすること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：ドイツ文学特論 I

曜日・講時：金曜 4 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：森本 浩一

コード：LM15404, **科目ナンバリング：**LGH-LIT630J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：カフカを読む

2・授業の目的と概要：フランツ・カフカ (Franz Kafka: 1883-1924) の小説をテキストとして、ドイツ文学作品を原文で読解・解釈する訓練を行う。文学研究や他の関連する話題について講義する機会ももうけたいと考えている。

3. 学習の到達目標：ドイツ文学作品の読解力が向上すること。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- (1) 導入
- (2) カフカの生涯と作品
- (3-14) テキスト講読 1-12
- (15) まとめ

5. 成績評価方法：おおむね、予習と授業への参加 (80%) とレポート (20%)

6. 教科書および参考書：テキストは教師が準備します。

7. 授業時間外学習：毎回、事前に訳読の準備をして授業に臨んで下さい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

- ・授業は原則として対面で実施する。リモートに切り替える場合は、Google Classroom で告知する。
- ・オフィス・アワーは特にもうけないが、随時個人的な質問・相談を受けつける。教員の連絡先アドレス宛にメールして事前にアボを取る。教員研究室は、川内北地区・国際交流棟の2階。

科目名：ドイツ文学特論Ⅱ

曜日・講時：金曜 4 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：森本 浩一

コード：LM25405, **科目ナンバリング：**LGH-LIT631J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：批評演習

2・授業の目的と概要：文学研究とは何をする事なのかという問いは、実は難しい。文献学や歴史研究のような相対的に客観的な知識を探究する研究スタイルもある。しかし小説のような「フィクションの物語」は元来ただの客観的事物（テキスト）ではなく、読者の主観的・想像的享受においてその存在が意味を持つようなものである。それゆえ、フィクションについて「書く」ためには、それを「読む」個人的経験それ自体を掘り下げつつ、この「経験」を表現にもたらず試行錯誤が重要となる。この実践を「批評」と呼びたい。批評はまた、作品という他者に臨む（自己）を思考し表

3. 学習の到達目標：批評的な思考と「書くこと」の技能が向上する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- (1) 導入
- (2) 物語メディアとの向き合い方
- (3) 小説について
- (4-14) 批評演習 1-11
- (15) まとめ

5. 成績評価方法：おおむね、批評文の提出と討議への参加（80%）および最終レポート（20%）

6. 教科書および参考書：必要に応じて授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：批評文等の指定された提出物は事前に準備し、必ず指示された時間までに Classroom 経由で提出すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

- ・授業は原則として対面で実施する。リモートに切り替える場合は、Google Classroom で告知する。
- ・オフィス・アワーは特にもうけないが、随時個人的な質問・相談を受けつける。教員の連絡先アドレス宛にメールして事前にアボを取る。教員研究室は、川内北地区・国際交流棟の2階。

科目名：ドイツ文化学特論 I

曜日・講時：金曜 2 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：佐藤 雪野

コード：LM15204, 科目ナンバリング：LGH-LIT632J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ドイツ（語）文化圏としての中欧の文化と歴史 (12)

2・授業の目的と概要：広い意味でのドイツ（語）文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、ドイツ以外のドイツ（語）文化圏に着目する。

「ドイツ文化圏」としてのプラハに注目し、なぜそこに「ドイツ文化圏」が生じたのかを含め、プラハの多文化性を考察する。講義のほかに、ドイツ語で書かれたテキストを読む機会を設け、ドイツ語の読解力も高める。

3. 学習の到達目標：1. ドイツ（語）文化圏の歴史と文化を理解する。

2. ドイツ語の読解力を向上させる。

3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション
2. プラハの歴史
3. ボヘミアとドイツ人
4. プラハとユダヤ人
5. プラハのドイツ文学
6. レンカ・ライネロヴァーとプラハ
7. ライネロヴァーの作品講読 1
8. ライネロヴァーの作品講読 2
9. ライネロヴァーの作品講読 3
10. ライネロヴァーの作品講読 4
11. ライネロヴァーの作品講読 5
12. ライネロヴァーの作品講読 6
13. ライネロヴァーの作品講読 7
14. ライネロヴァーの作品講読 8
15. まとめ

5. 成績評価方法：平常点（出席、アサインメント、発言状況）：70%

期末課題：30%

6. 教科書および参考書：テキストはプリント配布

その他の参考書は授業中に指示する。

Text will be provided at the class. Reference books will be introduced at the class.

7. 授業時間外学習：予習は、テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明（オフィス・アワー、講師への連絡方法など）は開講時に行う。

ドイツ語未修者で、受講希望の場合は、初回の授業時に申し出ること。

科目名：ドイツ文化学特論Ⅱ

曜日・講時：金曜 2 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：佐藤 雪野

コード：LM25204, 科目ナンバリング：LGH-LIT633J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ドイツ（語）文化圏としての中欧の文化と歴史 (13)

2・授業の目的と概要：広い意味でのドイツ（語）文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、ドイツ以外のドイツ（語）文化圏に着目する。

「ドイツ文化圏」としてのプラハに注目し、なぜそこに「ドイツ文化圏」が生じたのかを含め、プラハの多文化性を考察する。講義のほかに、ドイツ語で書かれたテキストを読む機会を設け、ドイツ語の読解力も高める。

3. 学習の到達目標：1. ドイツ（語）文化圏の歴史と文化を理解する。

2. ドイツ語の読解力を向上させる。

3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション
2. エゴン・エルヴィン・キッシュとプラハ
3. ホロコーストとプラハ
4. キッシュ作品講読 1
5. キッシュ作品講読 2
6. キッシュ作品講読 3
7. キッシュ作品講読 4
8. キッシュ作品講読 5
9. キッシュ作品講読 6
10. キッシュ作品講読 7
11. キッシュ作品講読 8
12. キッシュ作品講読 9
13. キッシュ作品講読 10
14. キッシュ作品講読 11
15. まとめ

5. 成績評価方法：平常点（出席、アサインメント、発言状況）：70%

期末課題：30%

6. 教科書および参考書：テキストはプリント配布。

その他の参考書は授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：予習は、テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明（オフィス・アワー、講師への連絡方法など）は開講時に行う。

科目名：ドイツ語学特論 I

曜日・講時：木曜 2 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LM14206, 科目ナンバリング：LGH-LIT652J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：モダリティ

2. 授業の目的と概要：言語範疇としてのモダリティの基礎を学ぶ

3. 学習の到達目標：言語範疇としてのモダリティの基礎を理解する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1～第3週 モダリティの定義

第4～第7週 モダリティ形式

第8～第11週 非認識的モダリティ

第12～第15週 認識的モダリティ

5. 成績評価方法：授業参加と毎回の課題・宿題に基いて評価する

6. 教科書および参考書：授業時に指示。詩の暗記が求められる

7. 授業時間外学習：毎回の課題

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

この授業に参加するには、言語学専修または日本語学専修または英語学専修の2年次の基礎的クラス（概論・講読等）を一通り受け、言語学（または日本語学、英語学）について基礎的な知識を持つことが前提となります。
ドイツ語能力は必要ではありません。

科目名：ドイツ語学特論Ⅱ

曜日・講時：木曜2限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LM24206, 科目ナンバリング：LGH-LIT653J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：モダリティ

2. 授業の目的と概要：言語範疇としてのモダリティの基礎を学ぶ

3. 学習の到達目標：言語範疇としてのモダリティの基礎を理解する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1～第3週 モダリティの意味

第4～第7週 モダリティ形式の歴史

第8～第11週 モダリティと他のカテゴリーの相互作用

第12～第15週 モダリティとムード・文のタイプ

5. 成績評価方法：授業参加と毎回の課題・宿題に基いて評価する

6. 教科書および参考書：授業時に指示。詩の暗記が求められる

7. 授業時間外学習：毎回の課題

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

この授業に参加するには、言語学専修または日本語学専修または英語学専修の2年次の基礎的クラス（概論等）を受け、言語学（または日本語学、英語学）について基礎的な知識を持つことが前提となります。

英語の学術文献を読める能力が求められる。一方、ドイツ語能力は必要ではありません。

科目名：ドイツ文学研究演習 I

曜日・講時：金曜 3 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：藤田 恭子

コード：LM15303, **科目ナンバリング：**LGH-LIT634J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：ルーマニア・ドイツ語文学におけるホロコーストとナチズム

2・授業の目的と概要：ドイツ語のテキストを厳密に読む。背景知識としてルーマニアにおけるナチズム受容とホロコーストの歴史を知る。

3. 学習の到達目標：ドイツ語の文学テキストを、その言語的時代的文脈を理解しつつ、解釈する方法を知る。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

ユダヤ系詩人たちおよびドイツ系作家のテキストを取り上げる。彼らの自伝的エッセイや二次文献の一部も読む。

第1回 導入

第2回 ルーマニアにおけるドイツ語話者の歴史

第3回 ルーマニアにおけるナチズム

第4回 ホロコーストをテーマとする詩 (1)

第5回 ホロコーストをテーマとする詩 (2)

第6回 ホロコーストをテーマとする詩 (3)

第7回 自伝的エッセイ (1)

第8回 自伝的エッセイ (2)

第9回 自伝的エッセイ (3)

第10回 ナチズム受容をテーマとする小説 (1)

第11回 ナチズム受容をテーマとする小説 (2)

第12回 ナチズム受容をテーマとする小説 (3)

第13回 二次文献 (1)

第14回 二次文献 (2)

第15回 まとめ

5. 成績評価方法：平常点 (出席、授業での発言、課題の発表、議論への参加)

6. 教科書および参考書：プリントを配付する。

7. 授業時間外学習：事前に配付したドイツ語テキストを予習し、読解すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

このクラスでは Google Classroom を用いて、授業連絡などを行う。教員の連絡先は以下の通り。kyoko.fujita.e5 アトマーク、トーホク、エーシー、ジェーピー

科目名：ドイツ文学研究演習Ⅱ

曜日・講時：金曜 3 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：藤田 恭子

コード：LM25304, **科目ナンバリング：**LGH-LIT635J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：ドイツ語の散文作品を読む

2. 授業の目的と概要：散文テキストを読み、また著者の自伝的テキストや二次文献を読んで、多様な解釈の可能性を知る。

3. 学習の到達目標：ドイツ語による散文を、その言語的時代的文脈を理解しつつ、解釈する方法を知る。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

2009 年度ノーベル文学賞を受賞したヘルタ・ミュラー (Herta Müller, 1953-) のテキストを取り上げる。彼女の自伝的エッセイや二次文献の一部も読む。

第 1 回 導入

第 2 回 ヘルタ・ミュラーの小説 (1)

第 3 回 ヘルタ・ミュラーの小説 (2)

第 4 回 ヘルタ・ミュラーの小説 (3)

第 5 回 ヘルタ・ミュラーの小説 (4)

第 6 回 ヘルタ・ミュラーの小説 (5)

第 7 回 ヘルタ・ミュラーの小説 “ (6)

第 8 回 ヘルタ・ミュラーの小説 (7)

第 9 回 ヘルタ・ミュラーの自伝的エッセイ (1)

第 10 回 ヘルタ・ミュラーの自伝的エッセイ (2)

第 11 回 ヘルタ・ミュラーの自伝的エッセイ (3)

第 12 回 二次文献 (1)

第 13 回 二次文献 (2)

第 14 回 二次文献 (3)

第 15 回 まとめ

5. 成績評価方法：平常点 (出席、授業での発言、課題の発表、議論への参加)

6. 教科書および参考書：プリントを配付する。

7. 授業時間外学習： 事前に配付したドイツ語テキストを予習し、読解すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

このクラスでは Google Classroom を用いて、授業連絡などを行う。

教員の連絡先は以下の通り。kyoko.fujita.e5 アトマーク、トーホク、エーシー、ジェーピー

科目名：ドイツ語学研究演習 I

曜日・講時：火曜 2 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LM12205, 科目ナンバリング：LGH-LIT636E, J, 使用言語：日本語、ドイツ語

1. 授業題目：ドイツ語・ドイツ語圏文化講読

2・授業の目的と概要：1) ドイツの雑誌（週刊誌）や近年の文学作品を読むことを通してドイツ語能力、ドイツ語圏文化の知識を身に着ける。

2) 雑誌記事または近年発表された文学作品を 3 週間あたり 1 作品（雑誌記事は 2 週間あたり 1 本）ぐらいのペースで読んでいく。

3) 参加者のドイツ語力や関心に合わせて文学作品や雑誌記事の代わりに中・上級の教材を使うこともある

3. 学習の到達目標：語彙を増やし、各自が持っているドイツ語を読む能力を高める。

また、聞き取り・会話力を含め、ドイツ語のコミュニケーション能力を高める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

以下は、一例である。

1. Lukas Bärfuss: Malinois
2. Lukas Bärfuss: Malinois
3. Lukas Bärfuss: Malinois
4. Raphaela Edelbauer: Das flüssige Land
5. Raphaela Edelbauer: Das flüssige Landl
6. Raphaela Edelbauer: Das flüssige Land
7. Sebastian Guhr: Die langen Arme
8. Sebastian Guhr: Die langen Arme
9. Sebastian Guhr: Die langen Arme
10. Miku Sopia Kühmel: Kintsugi
11. Miku Sopia Kühmel: Kintsugi
12. Miku Sopia Kühmel: Kintsugi
13. Tonio Schachinger: Nicht wie Ihr
14. Tonio Schachinger: Nicht wie Ihr
15. Tonio Schachinger: Nicht wie Ihr

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。クラスコードはシラバス入力時点では未定で学期初めに決まります。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

5. 成績評価方法：毎回の授業参加及び課題に基づく。

6. 教科書および参考書：上記の「授業内容」で掲載された書籍を教材とする

7. 授業時間外学習：授業の準備、宿題（課題）

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

少人数の場合、「演習」と一緒に運用されることもある

科目名：ドイツ語学研究演習Ⅱ

曜日・講時：火曜 2 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LM22206, 科目ナンバリング：LGH-LIT637E, J, 使用言語：ドイツ語、日本語

1. 授業題目：ドイツ語・ドイツ語圏文化講読

2・授業の目的と概要：1) ドイツの雑誌（週刊誌）や近年の文学作品を読むことを通してドイツ語能力、ドイツ語圏文化の知識を身に着ける。

2) 雑誌記事または近年発表された文学作品を3週間当たり1作品（雑誌記事は2週間当たり1本）ぐらいのペースで読んでいく。

3) 参加者のドイツ語力や関心に合わせて文学作品や雑誌記事の代わりに中・上級の教材を使うこともある

3. 学習の到達目標：語彙を増やし、各自が持っているドイツ語を読む能力を高める。

また、聞き取り・会話力を含め、ドイツ語のコミュニケーション能力を高める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

以下は一例である。

1. Sina Kamala Kaufmann: Helle Materie
2. Sina Kamala Kaufmann: Helle Materie
3. Sina Kamala Kaufmann: Helle Materie
4. Gerhard Falkner: Schorfheide
5. Gerhard Falkner: Schorfheide
6. Gerhard Falkner: Schorfheide
7. Clemens Setz: Der Trost runder Dinge
8. Clemens Setz: Der Trost runder Dinge
9. Clemens Setz: Der Trost runder Dinge
10. Fatma Aydemir: Eure Heimat ist unser Albtraum
11. Fatma Aydemir: Eure Heimat ist unser Albtraum
12. Fatma Aydemir: Eure Heimat ist unser Albtraum
13. Norbert Scheuer: Winterbienen
14. Norbert Scheuer: Winterbienen
15. Norbert Scheuer: Winterbienen

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。クラスコードはシラバス入力時点では未定で学期初めに決まります。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

5. 成績評価方法：課題（原則として毎回求められる）及び授業参加に基づいて。

6. 教科書および参考書：教員が用意する

7. 授業時間外学習：予習及び宿題・課題

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
(該当しない)

9. その他：

少人数の場合、「語学演習」と一緒に運用されることもある